

関西国際大学 卒業生追跡調査 結果報告（2022 年度実施）

キャリア支援センター
評価センター

❖ 卒業生調査について

関西国際大学では、本学での学びやキャリア支援の取組みが卒業後のキャリアや生活にどのように活かされているか、その効果や影響を把握するために、卒業生や就業企業、団体を対象とした卒業生調査を実施しております。

この結果は、今後のキャリア教育や教育効果の検証と質保証、教育活動を改善する取組みなどに活用していきます。

【実施概要】

調査対象	・ 卒業後4年目を迎えた卒業生（2018年度卒業生）：437名 ・ 就業先企業、病院および団体等：275社
調査方法	Web調査
調査時期	2023年 1～ 2 月
回収率	・ 卒業生回答 44件 回答率：10.1％（昨年度 7.8％） ・ 就職先回答数 75件 回答率：27.3％（昨年度 16.4％）
調査の活用	① 就職指導において業種、進路先名も含めた具体的な指導に活用 ② 教員による入職現場での業務分析 ③ 卒業後の教育成果・教育効果の検証と教育改善への活用 ④ 学外機関などの客観的視点の聴取と教育改善への活用

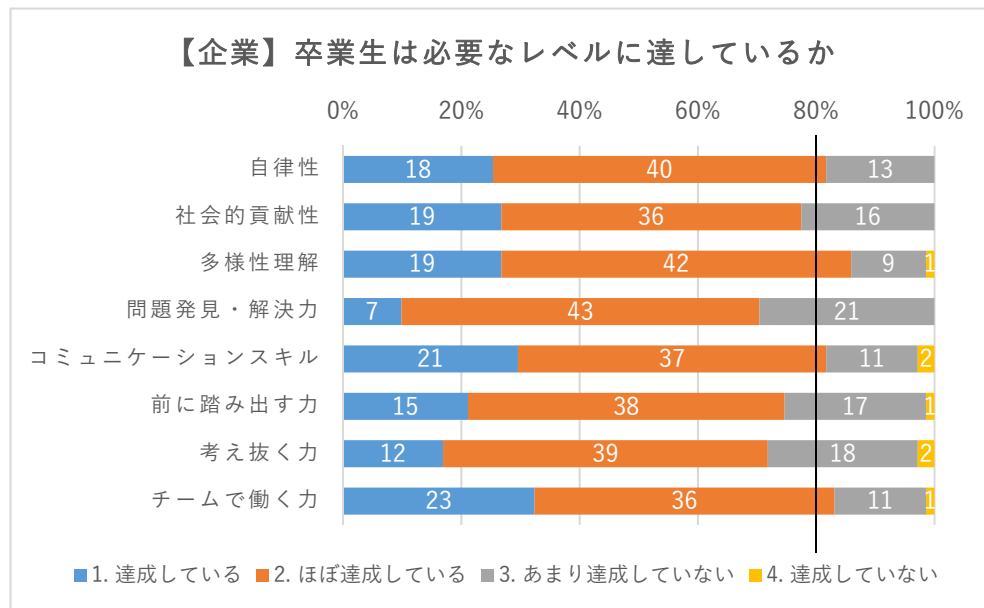
○調査結果分析と今後の改善に向けて

- 経験学習やアクティブラーニングなど本学の特色として実施してきた教育方法は、卒業後においても長く影響し、企業から評価も高いことから、引き続きプログラムの内容を改善しつつ、継続していくことが重要である。
- 一方、専門知識、外国語の運用能力など、いわゆるリテラシー関係の能力向上は不十分だと感じている在学生・卒業生が多い。そのため、専門知識と現実社会との関連の理解に重点を置いた教育を行うこと、また、教育プログラムの中で外国語の運用機会を増やすことが必要である。
- 調査に関して、督促ハガキの送付により企業回答率は向上したが、卒業生の回答は 10%程度にとどまった。インセンティブの検討など回答率の向上をめざす。

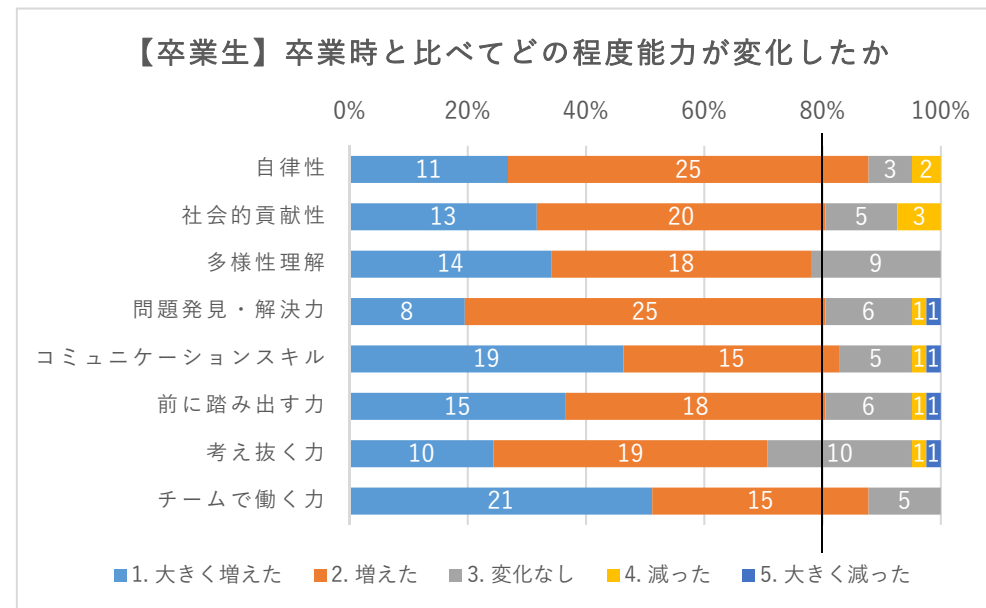
❖ 調査結果 1：就職先企業・団体向け調査（有効回答数：71）、卒業生向け調査（有効回答数：41）

Q. 8 つの能力・資質について：

〔企業調査〕 本学の卒業生は貴社に必要なレベルに達しているか。



〔卒業生調査〕 卒業時と比べてどの程度能力が変化したか。



企業調査で、「達成」＋「ほぼ達成している」の回答が8割を超えた項目は半数（昨年度と同じ）。一方、卒業生調査で、「大きく増えた」＋「増えた」の回答が8割を超えた項目は「多様性理解」「考え抜く力」以外の6項目（昨年度よりやや低下）。

○企業調査

- ・達成率8割以上：「自律性」「多様性理解」「コミュニケーションスキル」「チームで働く力」
- ・達成率7割以上8割未満：「社会的貢献性」「問題発見・解決力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」

○卒業生調査

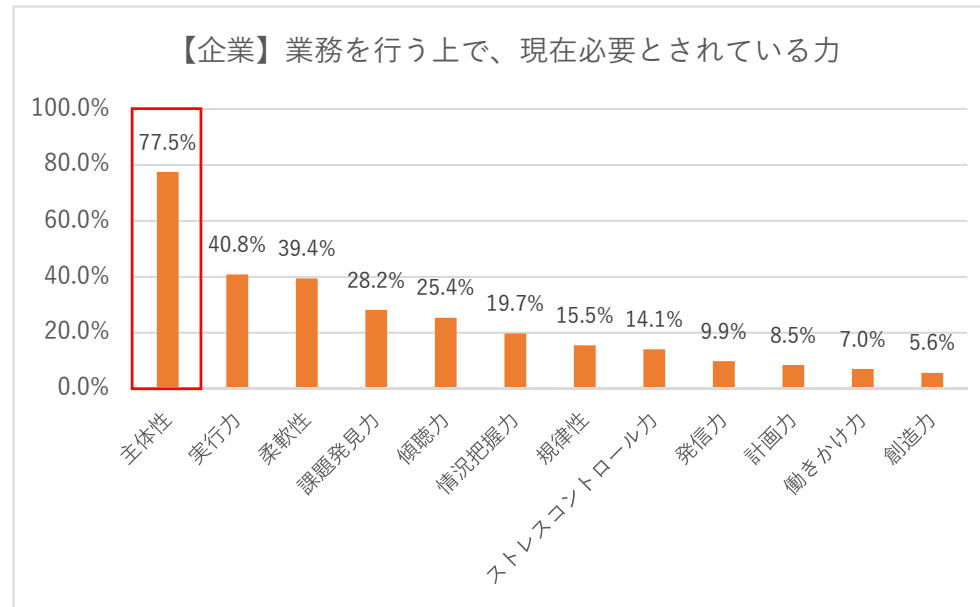
- ・達成率8割以上：「自律性」「社会的貢献性」「問題発見・解決力」「コミュニケーションスキル」「前に踏み出す力」「チームで働く力」
- ・達成率7割以上8割未満：「多様性理解」「考え抜く力」・・・いずれも昨年度は8割以上であり低下

◎「自律性」「コミュニケーションスキル」「チームで働く力」は、就職先企業、卒業生ともに評価が高い。（昨年度も同様）

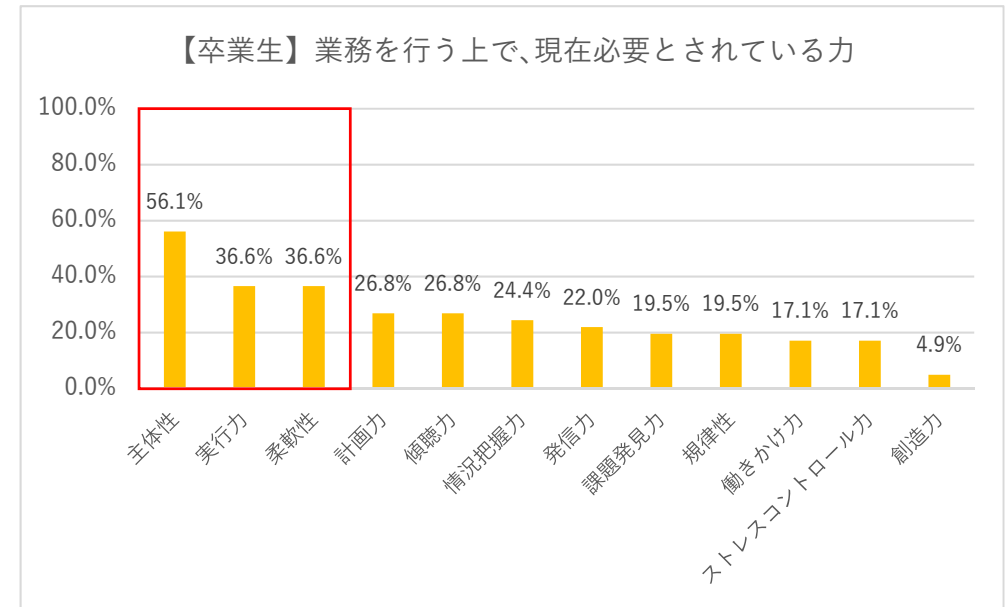
◎「問題発見・解決力」「考え抜く力」は、他の項目に比べ、就職先企業、卒業生ともに、評価が低めである。

Q.「社会人基礎力」について

[企業調査] 貴社で働く際に特に必要だと思われるものを選択（上位3つ）



[卒業生調査] 業務を行う上で、現在必要とされている力を選択（上位3つ）



企業調査では、働く際に必要な力として「主体性」が突出している。一方、卒業生調査では、業務上必要とされている力として「主体性」が最も高い点は企業調査と同様であるが、「創造力」を除くその他の能力も必要であると感じている人の割合が比較的高い。※昨年度と同様の結果

○企業調査

- ・働く際に特に必要だと思われる力：「主体性」（77.5%）
- ・次いで「実行力」「柔軟性」と続くが4割程度の回答。昨年度2番目に多かった「傾聴力」は5番目の回答率（25.4%）であった。

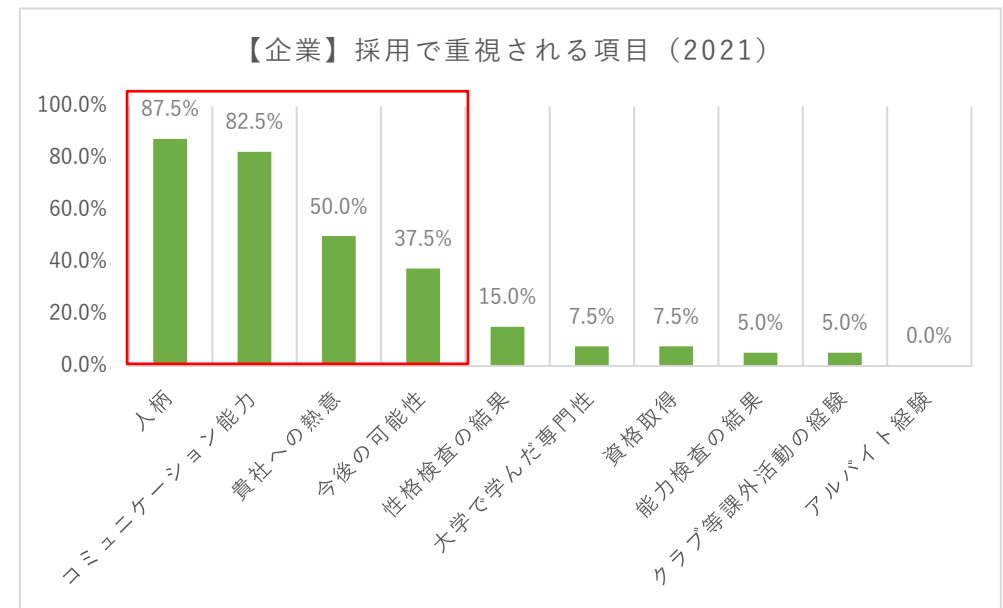
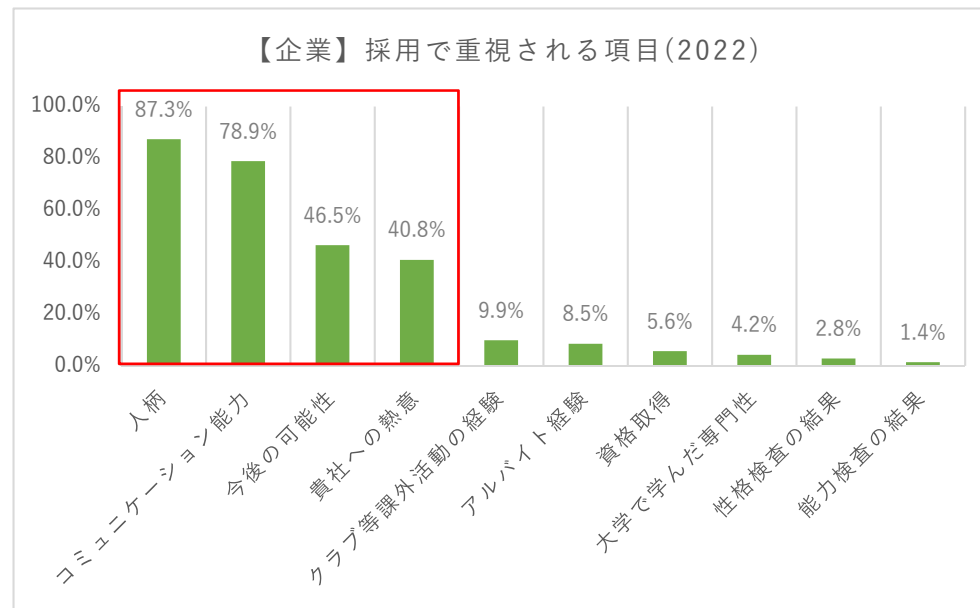
○卒業生調査

- ・業務を行う上で必要とされている力：「主体性」（56.1%）、次いで「実行力」「柔軟性」と続くが、「創造力」を除いて大差はない。

◎就職先企業、卒業生ともに上位3つは同じ能力を挙げている。：①主体性、②実行力、③柔軟性

◎就職先企業は、働く上で「主体性」を強く求めているのに対して、卒業生は「主体性」を筆頭にそれ以外の能力も満遍なく求められていると感じている。

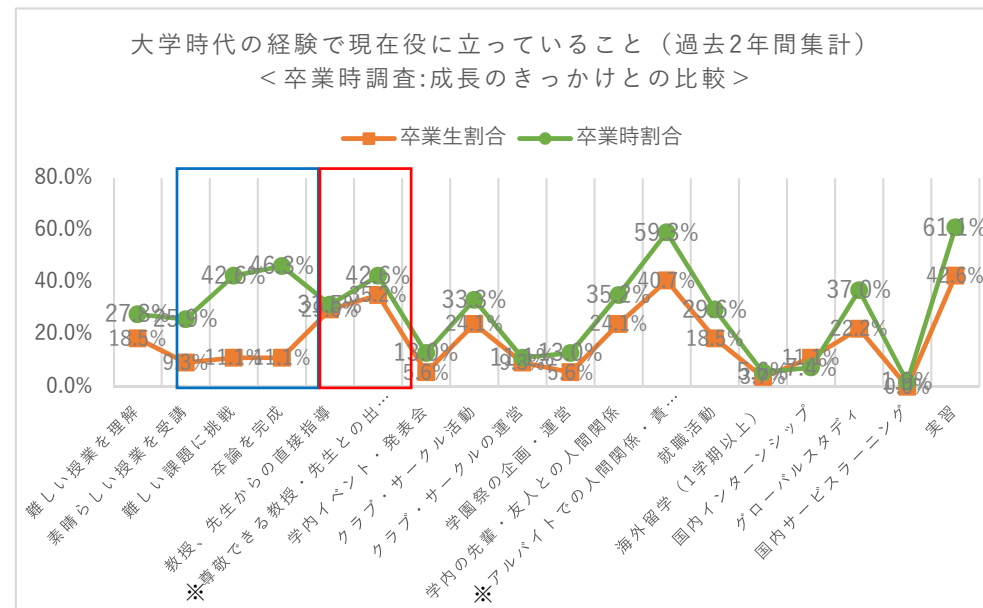
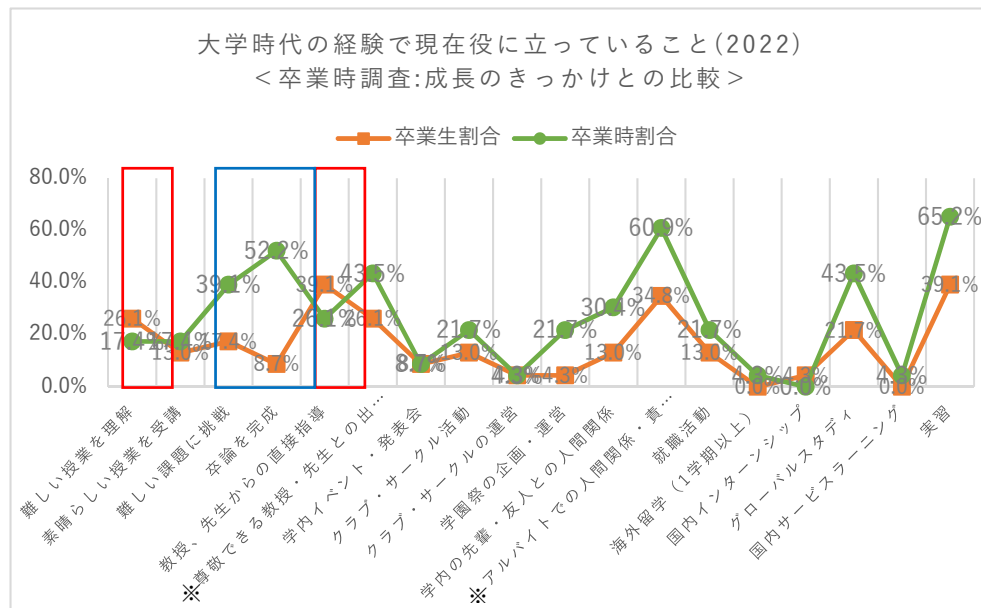
Q. [企業調査] 採用選考で重視される項目（上位3つ）



- ・「人柄」「コミュニケーション能力」を重視する企業が7割以上、「今後の可能性」「貴社への熱意」が4割前後で、その他の項目は10%以下となっている。

◎昨年度との比較でも、重視される上位4項目：「人柄」「コミュニケーション能力」「今後の可能性」「貴社への熱意」は変わっていない。

Q. [卒業生調査] 大学時代の経験で、現在役に立っていること（3つ選択）



※「卒業時調査」と「卒業生調査」両方の回答がある学生での集計（2022年度調査：n=23、過去2年分(2021-2022年度)合計：n=54）
※尊敬できる教授・先生との出会い ※アルバイトでの人間関係・責任の重さ

＜2022 年度結果＞

- ・卒業時に成長のきっかけとして選択割合の高かった「難しい課題に挑戦」や「卒論を完成」は、卒業後にはあまり役に立っていると感じられていない。
- ・一方で、「教授、先生からの直接指導」は卒業後の方が高い。「難しい授業を理解」も卒業生調査の選択率が若干上回った。
- ・「クラブ・サークル活動」「アルバイトでの人間関係・責任の重さ」「経験学習」などの経験は昨年度より選択率が低下しているものの、回答の傾向に変化はない。

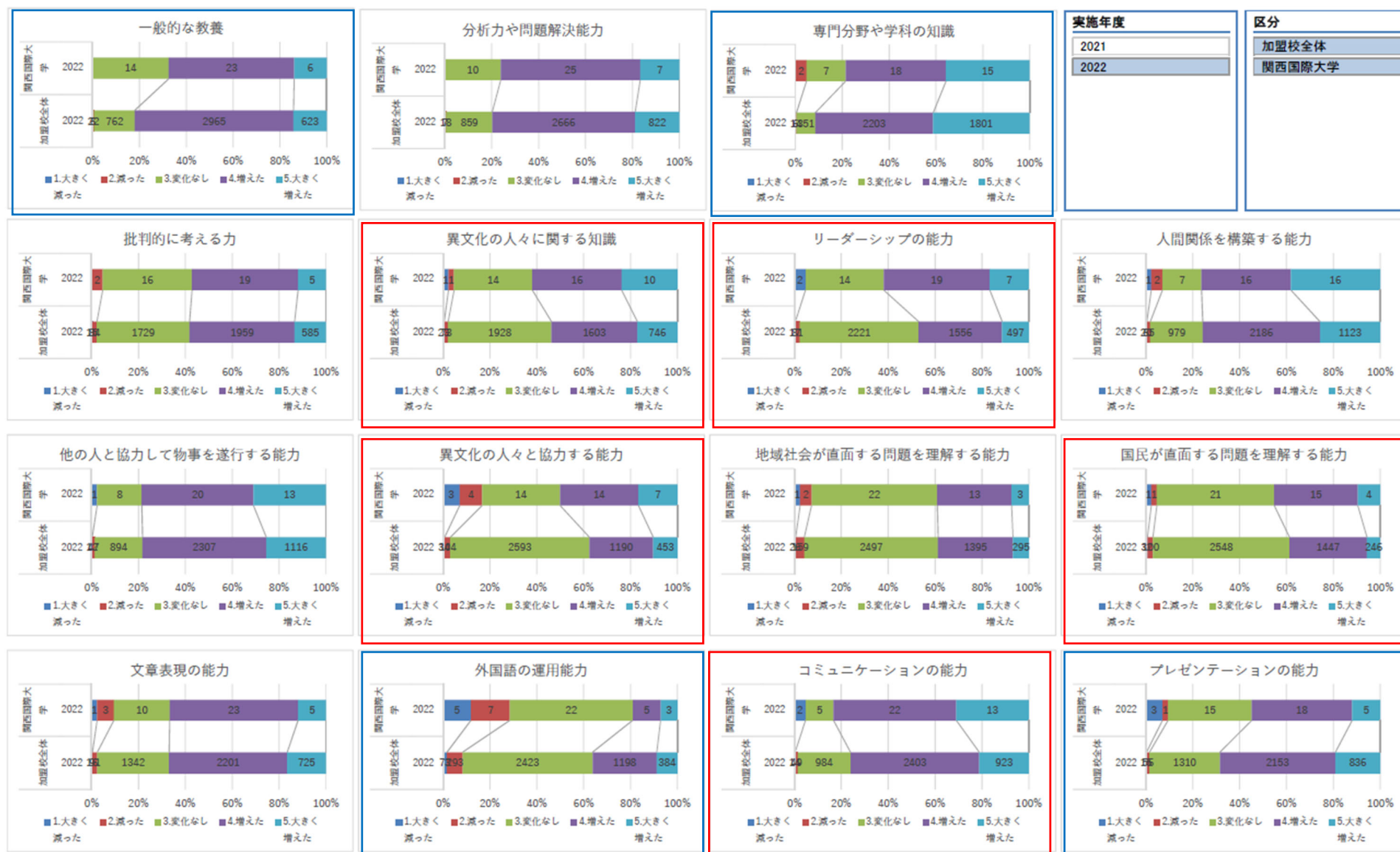
＜過去2年間での集計結果＞

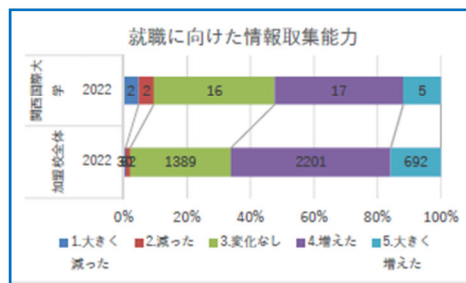
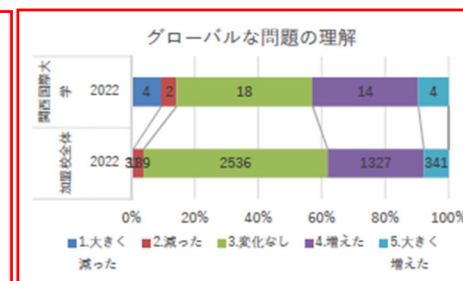
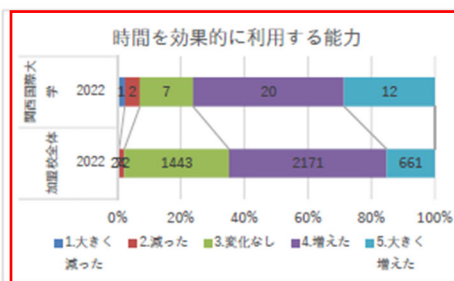
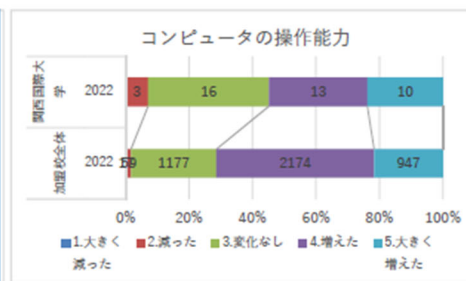
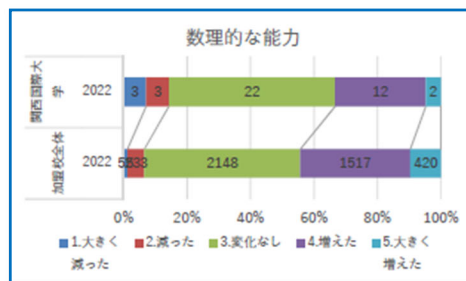
- ・2年間での集計ではさらに傾向が強くなる。「素晴らしい授業を受講」「難しい課題に挑戦」「卒論を完成」は卒業時の選択率から低下、一方で「教授、先生からの直接指導」「尊敬できる教授・先生との出会い」は、卒業時からほぼ変わっていない。
- ・クラブ・サークル活動、学内先輩・友人関係、アルバイト関係、経験学習などは卒業時よりは全体的に選択率が下がるものの、回答の傾向に変化はない。

◎「教員との出会い（関係性）」や「経験学習」の経験は、卒業後の社会生活においても長期的に影響があるのではないか。

❖ 調査結果 2：他大学との比較（大学 IR コンソーシアム「卒業生調査」結果との比較）

Q. [卒業生調査] 在学中を振り返って、知識や能力はどのように変化したか。





多くの項目で加盟校全体と同等かそれ以上の割合で知識や能力が「大きく増えた」「増えた」と感じている。※ただし、昨年度結果よりは低下。

- ・上回っている項目：「異文化理解」に関する項目、「リーダーシップ」、「他者理解・協働」に関する項目、「コミュニケーションの能力」など
- ・下回っている項目：「専門分野の知識」「外国語の運用能力」「数的な能力」「プレゼンテーションの能力」など

◎在学中の調査（大学 IR コンソーシアム学生調査）と卒業生調査の結果ともに、加盟校全体と比べて増えたと感じている知識や能力の項目はほぼ同じ。

◎経験学習やアクティブラーニングをはじめ、本学の教育を通して在学中に伸びた能力は、長期的に（卒業後も）影響していることがうかがえる。

以 上